

□ 再開発事業の概要（P.5）

再開発予定地区

九段南1丁目の靖国通り、内堀通り、首都高5号線に囲まれた地区
（九段郵便局、九段生涯学習館、りそな銀行含む）



立ち退きスケジュール

令和5年頃を期限に明け渡し期限が設定される（予定）

□ 現有施設での活動実績と課題（P.7～10）

〈活動実績〉

展示機能

- ・常設展に加え、企画展（春・夏の年2回）及び特定のテーマに焦点をあてたミニ展示の実施

収集保存機能

- ・関連資料を着実に収集保存
（実物資料約3万点、図書資料約1万点を収集・保存
戦傷病者の証言記録映像約200本）

教育啓発機能

- ・令和元年10月より「次世代の語り部」活動を実施

情報センター機能

- ・情報検索システムを構築し、館内所蔵資料を統合管理
- ・資料情報を適宜更新し運用

管理サービス機能

- ・団体見学の積極受入れを実施
（H23年度：約100団体→R1年度：約170団体まで推移）

企画調整機能

- ・平成27年から地方都市での展示会を開催
- ・昭和館、平和祈念展示資料館との連携企画も実施

〈課題〉

- ・戦傷病者の減少から不在の時代へ
→収集資料の保存・活用の重要度の増加
- ・来館者の若年化の傾向
→先の大戦等の基本的情報を知らない来館者の増加
- ・ネットワーク型情報提供の遅れ
→来館せずとも情報発信して労苦継承を推進する必要性

□ しょうけい館移転整備の基本方針（P.12～19）

- ・移転に当たっては、平成15年度に「戦傷病者等労苦継承事業企画調査委員会」において取りまとめられた基本方針を原則、継承するとともに、現有施設が抱える課題に対応するため、以下の方針を定める。

① 発信力のさらなる強化

「施設」を活用した発信

先の大戦等の基本的情報の充実等により戦争について知らない若い世代にも伝わりやすい展示を検討

「ネットワーク」を活用した発信

HP、YouTube、SNS等による情報発信を推進

「人」を活用した発信

語り部活動等をはじめ、来館者等との対話を通して労苦に理解を深める取組を推進

戦傷病者の労苦に触れる機会の増加
“伝える”から“伝わる”へ

② 資料の収集・保存・管理の着実な実施と活用

資料の寄贈依頼の継続、資料のさらなる適正管理に加え、所蔵資料の展示での積極活用の推進

歴史的資料の散逸・劣化の防止
幅広く国民の利用に供し、研究や学習を支援

□現状施設の課題と解決の方向性 (P.21～31)

□施設・設備整備計画 (P.37～39)

展示機能

収集・保存機能

教育啓発機能

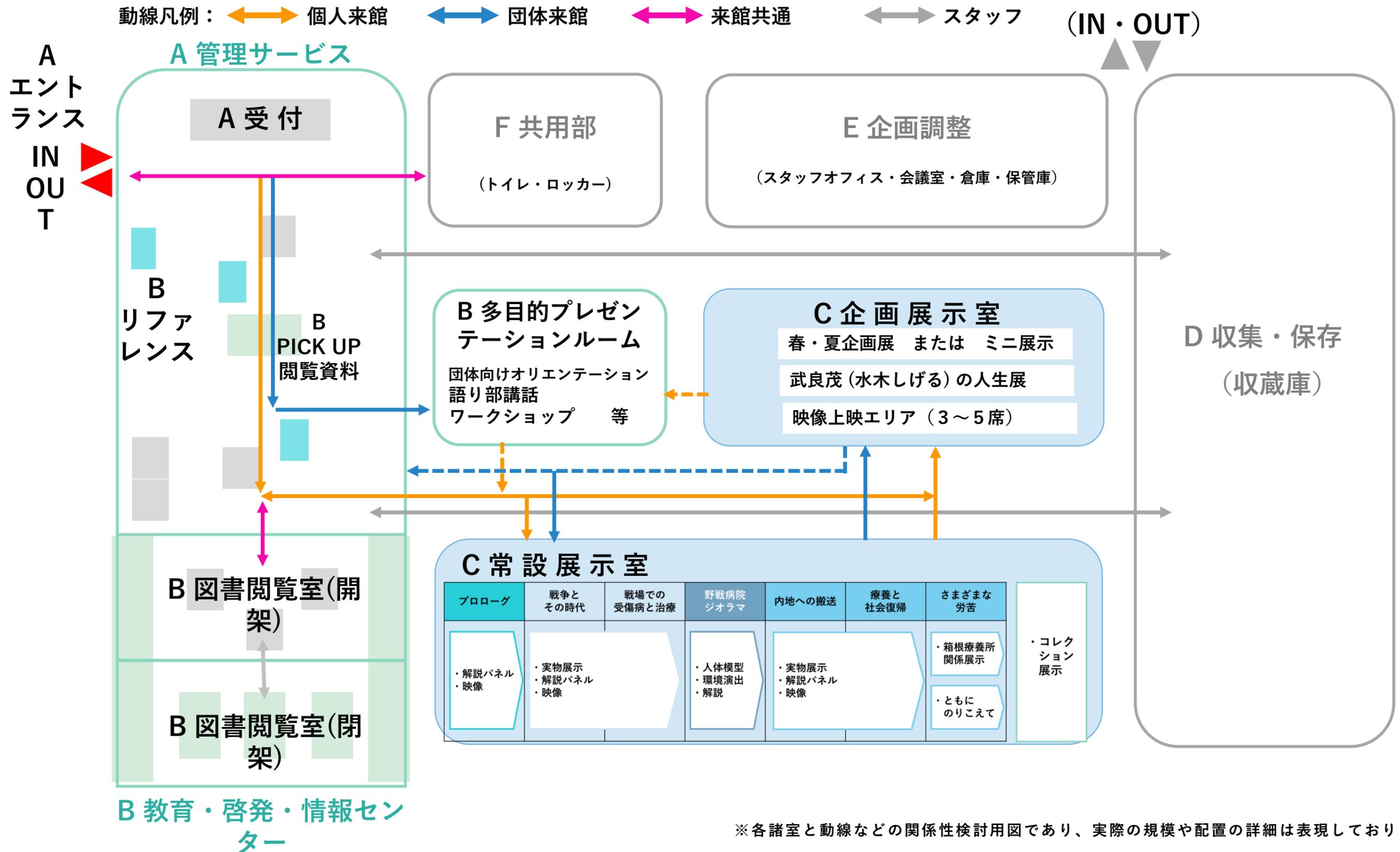
情報センター機能

施設・設備・活動	課題	解決の方向性
常設展	<ul style="list-style-type: none"> 先の大戦の基本情報の提示が少ない 展示している所蔵資料が固定化 	<ul style="list-style-type: none"> 先の大戦等の基本情報の提供を追加 展示品を適宜交換展示できる仕組みを用意
企画展	<ul style="list-style-type: none"> 開催テーマが限定的で、ホームページでの紹介も少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある展示テーマを設定し集客力のある企画展を計画 ホームページへの詳細な企画展等の情報掲示
収集・保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> 厳密な温度湿度管理が確保できない施設環境 収蔵品の展示の入れ替えが行われず固定化 	<ul style="list-style-type: none"> 管理強化が可能な環境の確保 常設展示の展示方法の見直し
学習支援・学校教育との連携	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの学習支援が行えていない 学校等の関連機関への情報発信が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 団体見学の対象機関のニーズに対応するためのネットワークの整備
語り部活動	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの活動などのネットワークを通じた活動が行えていない 	<ul style="list-style-type: none"> IT系情報インフラの整備
情報検索システム	<ul style="list-style-type: none"> 館内限定情報として情報検索システムを運用している 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークを通じての館外への情報検索システム格納情報の一部提供の検討
館ホームページ、インターネットを通じた情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 展示に関する情報が少なく、SNSでのコンテンツ提供を行っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークコンテンツの拡充の推進

諸室	計画概要
常設展示室	<ul style="list-style-type: none"> 先の大戦の情報コーナーを新設 収蔵資料が適宜更新展示できる展示手法の採用 若者を意識した展示手法の導入
コレクション展示室	<ul style="list-style-type: none"> 戦傷病者個人に焦点をあて、収蔵品を展示する展示室を新設
企画展示室	<ul style="list-style-type: none"> 1つのテーマに焦点をあてる方針は踏襲しつつ、一般の行催事や注目されている話題に連動した多様なテーマ設定の展示が可能な施設を整備
収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> 独立し温度・湿度管理が適切にできる収蔵庫を整備 ※移転先施設の床面積に応じて、外部倉庫を借り上げることを検討
多目的プレゼンテーションルーム	<ul style="list-style-type: none"> 団体見学のオリエン、語り部講話その他多様な催事等に活用できる施設を整備 60名程度の収容を理想とし、大型スクリーン、演台等の設備を用意
図書閲覧室	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス機能を充実させた施設を整備 映像視聴ブースを設置
情報検索システム等	<ul style="list-style-type: none"> 現状の情報検索システムに加え、インターネット系情報インフラを整備
インフォメーション受付	<ul style="list-style-type: none"> 1名の要員でインフォメーションのみならず入退場管理や各種サービス業務を担えるようにする
事務室	<ul style="list-style-type: none"> 最低10名の事務スペースに加え、会議スペース、収納を確保した100㎡程度の面積の施設を整備

管理サービス機能、企画調整機能

□施設・設備整備計画 — 諸室機能関連図 — (P.41~42)



□ 移転先施設の基本要件 (P.33～35)

立地

- ・現状施設の賃貸料を上限
- ・九段下近隣地区、昭和館から徒歩圏内が理想
それ以外の場合は、山手線内で駅から徒歩圏内を基本とする
- ・候補地区は九段下以外の場合は、新宿、両国など関連集客施設のある地域を想定

施設

- ・土日祝日の開館対応、博物館としての用途変更が可能なこと
- ・延べ床面積は、約800㎡以上を目安とする（事務所及び収蔵庫含む）

□ 展示計画 —基本方針— (P.45～46)

- ・若者世代に伝わる展示 → 戦傷病者の労苦の背景を理解できるようにする工夫を施す
- ・所蔵資料を十分に活用する展示 → 収蔵資料を可能な限り多く展示することを実現する
- ・リアルとバーチャルを機能的に組み合わせた展示 → 展示内容について深い理解を促進する

□ 展示計画 —常設展示— (P.47～57)

現施設の展示構成と課題、改善内容

戦争とその時代・戦場での受傷病と治療

現状の展示概要

- ・徴兵制の成立から、入営、出征そして戦地での生活や受傷について、実物展示と解説パネルを中心に展示している。

課題

- ・展示品が固定化している。また展示品の保護に関する配慮に欠けている環境がある。
- ・展示内容の理解促進のための当時の社会情勢等の解説にやや欠ける。

改善内容

- ・徴兵に対する現代とは全く異なる当時の国民の意識や、年々高くなる徴集率などを示すことにより、徴兵制が当時どのように認識されていたかを示す。

移転後の全体的な展示の方向性、改善内容

- ・ある兵士の徴兵から受傷、帰還、そして戦後の苦労といった戦傷病者の足跡をたどるという現状の常設展示の基本構成は踏襲する。
- ・各コーナーの展示展開方法は、映像ディスプレイ、実物展示品、解説パネルの3要素を基本として構成する。
- ・展示物の損傷防止に配慮した展示方法を可能な限り採用する。
- ・来館者の理解促進のため、文書資料の現代語訳、記録映像への字幕付与を進めていく。
- ・スマートフォンやAR（拡張現実）など、新しい技術を活用した展示手法を検討する。

プロローグ

現状の展示概要

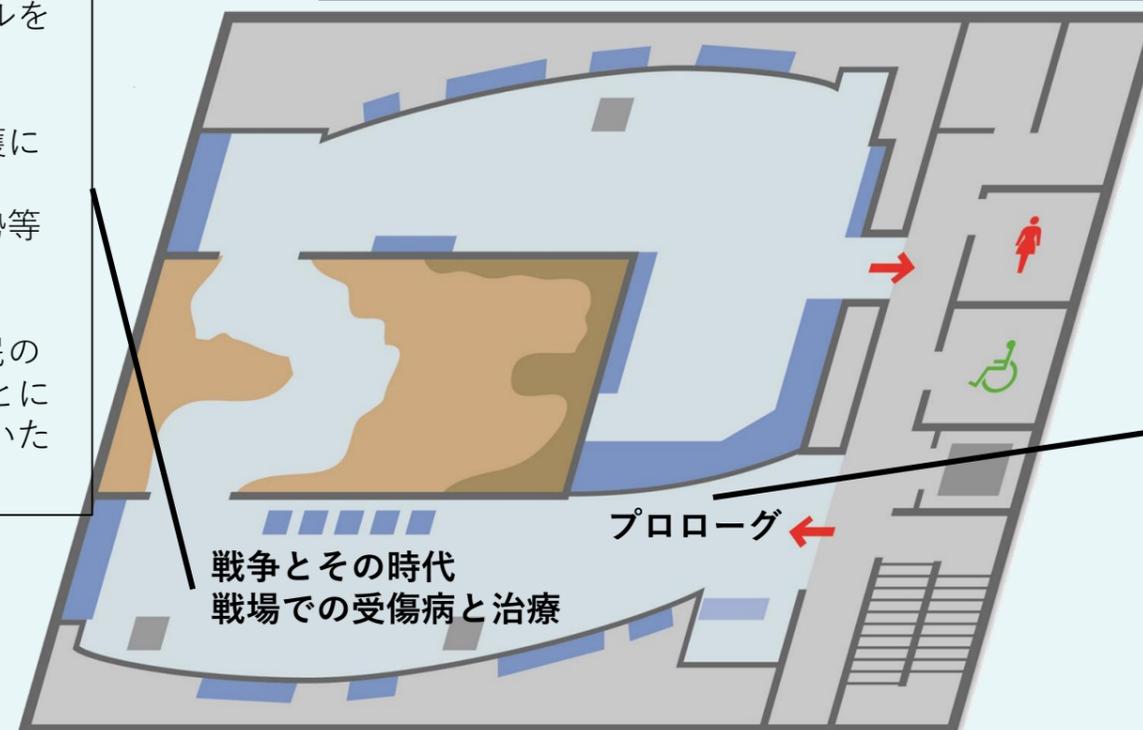
- ・「ある兵士の足跡をたどる」という展示の基本ストーリーを簡潔に紹介している。

課題

- ・先の大戦に関する基礎情報等の提供がないため、当時の日本などの状況を知らない若い世代には解説が必要。
- ・展示の基本ストーリーが単純な文章のみで伝わりにくい。

改善内容

- ・先の大戦の基礎情報の提示（戦場となった地域、年表、当時の社会常識等）
- ・「ある兵士」が来館者にとって少しでも自分事だと感じられるよう、具体的情報を展開する。



内地への搬送・療養と社会復帰

現状の展示概要

- ・内地への搬送では病院船の模型や記録映画などを特殊な展示手法で紹介し、療養と社会復帰では戦傷病者の帰還後の労苦について義肢等の実物展示や写真等で展示している。

課題

- ・特に戦後の労苦に関する展示は、展示品も少なく解説として不足している。

改善内容

- ・戦後を扱うコーナーを拡充する。

野戦病院ジオラマ

現状の展示概要

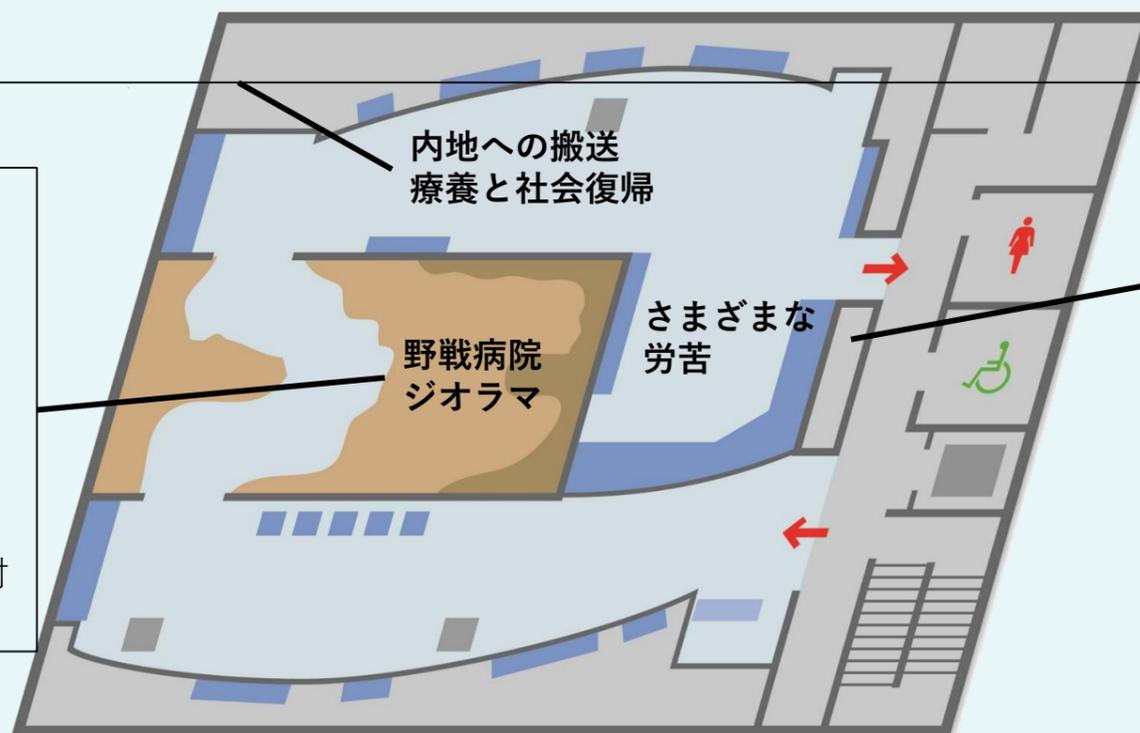
- ・戦傷病者の受傷と戦地での救護活動の状況を伝える野戦病院のジオラマを展示している。

課題

- ・ナレーションによる解説を選択して聴取できる仕組みだが、解説が長すぎる。

改善内容

- ・現状の音声解説は取りやめ、団体見学、個人見学それぞれ見学方法に適した解説コンテンツを検討する。



さまざまな労苦

(「箱根療養所」「ともにのりこえて」)

現状の展示概要

- ・脊髄損傷者の療養所「箱根療養所」の紹介と、証言映像から見てきた戦傷病者とその家族の労苦を写真で紹介している。

課題

- ・「箱根療養所」コーナーは、大量の寄贈品を活用しきれていない。
- ・「ともにのりこえて」コーナーは、戦後の労苦の中でも、希望や前向きに生きたエピソードなどの言及が乏しい。
- ・戦後から現代につながる日本の時代の流れなどの展示がなく、来館者が生きている今につながる視点に乏しい。

改善内容

- ・箱根療養所に関する紹介写真や映像資料、当該施設で使用されていた車いす等の実物資料を追加する。
- ・「ともにのりこえて」は、人生の再出発や希望に満ちたエピソードなどを紹介する展示を充実させる。

常設展示のバーチャル展示

リアル展示

- ・見学時間が限られている中で、施設の詳細な情報や映像等に関して網羅的に閲覧・視聴することは困難
- ・どのような展示がされているのか来館してみないと分からない

来館後の復習

来館促進

バーチャル展示

- ・常設展示と同じ構成にしたデジタルコンテンツをHPで展開
- ・リアル展示では紹介しきれない戦傷病者の実物資料の背景にある当時の社会情勢や歴史情報などの詳細情報を発信する
- ・来館したことがない方でも興味を湧くような情報を提供する。

□ 展示計画 —その他— (P.58~59)

コレクション展示

- ・戦時装備品、受傷時関係品、義肢、戦後生活関連品、戦傷病者の作品といった実物展示を通してそれぞれの戦傷病者が負った個別の労苦を紹介する。

企画展示

- ・春・夏の企画展：一般の行催事と連動した魅力あるテーマを検討。
- ・ミニ展示：戦争に関する基礎的な知識がない方でも分かりやすいテーマを設定し、小規模な展示を実施。

常設展示で対応しきれない展示

- ・常設展示等特性上、展示物の入れ替えに限界がある

- ・特定のテーマに焦点をおいた労苦の紹介